

達成度 A：達成できた（8割以上） B：ほぼ達成できた（6～7割） C：あまり達成できなかった（4～5割） D：達成できなかった（3割以下）

自 己 評 価					学校関係者評価		次年度の課題	
NO	項目	重点目標	具体的方策・指標・基準等	達成状況	達成度	成果○と課題●		意見・要望・評価
1	学校経営	①コミュニケーションを大切にしながら学校経営を推進するとともに、生徒理解を基底に据えた教育活動を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○面談週間やホームルーム活動を活用し、生徒理解と生活実態の把握に努める。(全学年)</li> <li>○早期に学校生活に適應できるよう支援する。(1年)</li> <li>○充実した学校生活が送れるように指導助言を行う。(2年)</li> <li>○より良い学校生活が送れるよう配慮する。(3年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面談週間を活用した二者面談を3回、教科担当者を2回行った。(1年)</li> <li>・二者面談にて生徒理解と生活実態の把握(3回)を行い、教科担当者会(1回目は書面、2回目は対面)を実施した。(2年)</li> <li>・二者面談や三者面談を、生徒あたり平均5回程度実施した。(3年)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○二者面談を通して生徒理解や問題の未然防止に役立てることができた。(1年)</li> <li>○面談シート工夫して活用することにより、生徒に寄り添いきめ細かに対応できた。相互の信頼関係を構築できている。(2年)</li> <li>○生徒一人一人の状況に合わせて、きめ細やかに対応することができた。(3年)</li> <li>●担任が二者面談を行う時間をつくるのに苦労していた。会議や平日補充学習などで放課後の時間がなかなか取れない中、朝や昼休みなどを利用して面談を行った。(1年)</li> <li>●担任の業務量が多く、生徒理解に十分な時間が割けない状況が見られる。(文系のクラス人数が多い。1組43名、2組42名)(2年)</li> <li>●成績を伸ばさせられなかった生徒への手厚い支援ができる余裕がほしかった。(3年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒との面談を通して、丁寧な指導がなされていると思う。先生方のふだんの働き方が気になるところだが、時間を確保して、引き続き丁寧な対応をお願いしたい。</li> <li>・2学年の担任の業務量が多く、生徒理解、学習指導、生徒指導に十分な時間が確保できないとの記載があるが、文系の人数が多いからなのか、その他の理由があるのかを考察し、生徒との関わりを深く持つことができるよう改善する必要があると考える。</li> <li>・これからの社会がどう変化していくのか、誰も予測がつかない中を、これからも先生方と保護者との連携をうまく保ちながら、子供達に安心・安全で、厳しくも楽しい学校生活を送ってもらえればと思っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特にクラス担任の業務量に配慮した上で、引き続き面談週間を確実に設定し、生徒に寄り添う丁寧な面談を行っていく。</li> <li>・家庭との綿密な連携を図るとともに、生徒に関する情報の職員間における共有に努めながら、組織としての教育活動を心がける。</li> </ul>
		②学級減に伴う教員定数や生徒数の減少、海外研修旅行の実施など、学校変革期における体制の整備と対応を万全に図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総合的な探究の時間並びに、海外研修旅行を活用し、次代のリーダーに求められるグローバルな視点とコミュニケーション能力を養う。(2年)</li> <li>○担任会、各課会議、連絡協議会などを通じて、学校変革期における問題点について共有し、解決策を検討する。(教務)</li> <li>○教育課程が目指す理数科の生徒像を理解させ、それを実現させる生活・学習パターンをしっかりと定着させる。(理数)</li> <li>○2年理数科の海外研修について、より研修が深まる内容となるよう研究を進める。(理数)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外研修旅行は中止となったが、代替事業として函館・東北研修旅行を実施した。近県であり、かつ地域に根ざした独自の文化を体験でき、「総合的な探究の時間」を活用しての探究学習を実施することができた。(2年)</li> <li>・コロナ禍で、従来通りの授業や学校行事をすることができないことが多かったが、その都度問題点を共有し、運営の仕方について検討を行った。(教務)</li> <li>・理数科としてやるべきことはある程度理解はしているが、実践に移す段階がうまくいかない、という生徒が多い。(理数)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東北、函館の歴史を学び、地域に根ざした独自の文化を体験できた。(2年)</li> <li>○未曾有の事態にも関係機関と連携して適切に対処することができた。(教務)</li> <li>○理数科としてあるべき姿はイメージすることができている。(理数)</li> <li>●研修地変更により、準備期間が十分に確保できなかった。(2年)</li> <li>●時間的制約があった時には、情報が各処に十分に理解されないうちに、関係者のみで物事を決定しなければならないことがあった。迅速な情報共有と意見集約の仕方を再考する余地があるかもしれない。(教務)</li> <li>●強い意志を持って取り組める生徒がまだ少ない。(理数)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校の少人数学級化と同様、高校における1クラス定員の減を目指すなど、教師の負担を減少し、新たな学びへの対応や、個別の指導がさらに充実できるように、働き方改革の推進とともに、さらに要望していく必要があると思う。</li> <li>・コロナ感染のトラブルもなく、研修旅行からも無事の帰宅ができたことは、先生方の御指導、生徒たちの自己管理の賜物であると感じている。</li> <li>・2学年の研修旅行は本来の海外研修から、急遽国内研修に変更になったが、コロナ対策を万全にして実施できたことは、生徒達の楽しい思い出だけでなく、これが南高だ！というのを、世間に知ってもらえたのではないかな。</li> <li>・高校時代に国外の空気に触れることはいいこと。状況が改善されれば海外研修を積極的に行ってほしい。違いに気づき理解していくことが感覚・常識が違う他者への意識変革につながる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員定数減に伴い、校務分掌や部活動の見直しを進め、人員の適正配置に努める。</li> <li>・2学年の海外研修旅行の実施に向けて、コロナ禍の状況下における情報収集に努めながら、代替開催を含めた準備を遅滞なく進める。</li> <li>・校内グループウェアの円滑な運用を進めるとともに、新たに全県的に導入される校務支援システムへの対応を確実に行って、校務の負担軽減に努める。</li> </ul>
		③教職員の「働き方改革」を推進するとともに、PTAや後援会、同窓会等、外部団体との連携を密にしながら学校の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「さくら連絡網」や学年通信の発行を通して生徒の学校生活と各種情報を提供し、保護者との連携を密にして共通理解を図る。(全学年)</li> <li>○保護者と協同してPTA広報紙を発行したり、保護者のPTA行事への積極的参加を促すなど、保護者との連携を推進する。(総務)</li> <li>○同窓会事務局との情報共有に努める。(総務)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さくら連絡網を通し、日程等の情報を保護者に随時連絡した。また学年通信を月1～2回、計16回発行した。(1年)</li> <li>・PTA広報誌「南高だより」は、コロナ禍で会議の運営や内容の変更を余儀なくされたが、予定通り年2回発行できる見通しが立った。(総務)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校での様子や生徒に語っていることを保護者に伝えることができた。(1年)</li> <li>○昨年度から「南高だより」の発行を年2回としたが、特に問題は生じていない。(総務)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さくら通信網や学年通信等を通して、家庭と学校との情報の共有化が図られたことは、連携を重視する観点からとても良かった。</li> <li>・コロナ禍において保護者に対し学校生活の状況を伝える手段は限られているが、学年通信や連絡網を活用し、PTA離れや情報共有に齟齬が生じることの無いよう、引き続き情報発信に努めていただきたい。</li> <li>・学校環境整備については、県予算との兼ね合いもあり、他の私立高校と比較すると劣るところがあるため、他校と同等レベルとなるよう、PTAや同窓会などと連携しながら要望などを行い、ハード・ソフト両面の学習環境の整備・向上を期待したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校から発信する情報が保護者に確実に届くように、ホームページやさくら連絡網を活用する。</li> <li>・保護者からの学校や教職員への電話連絡については、理解と協力を得ながら時間設定等を行い、さくら連絡網の利用による教職員の負担軽減をさらに促進していく。</li> <li>・同窓会やPTA等との連携・協力の下、創立80周年記念事業を滞りなく実施する。</li> <li>・公務を補助するための団費職員の雇用によって、教員の負担軽減を図る。</li> </ul>

2	学習指導	<p>④主体的に学習に取り組む態度を育成し、授業第一主義及びタイムマネジメントを徹底させながら、学力の向上を図る。</p>	<p>○授業第一主義のもと、予習、復習、課題に取り組ませ、平日は1日150分、休日は1日4時間以上の家庭学習時間を習慣化するよう指導する。(1・2年) ○平日は1日270分、休日は1日8時間以上の家庭学習時間を習慣化させる。(3年) ○学習時間調査や成績分析を行い、教科担任、部顧問、家庭との連携を密にし、面談等を通じた生活実態の把握に努め、効果的な学習について指導する。(1年) ○学習計画を綿密に立てて、自律的に学習に励む姿勢を身につけさせるため、南高手帳の活用を充実させる。(3年) ○授業第一主義を徹底するため、なるべく自習を生じさせないように教務課主導で時間割変更を行い、授業環境を整える。(教務) ○各教科ごとに校内研究授業を行い、生徒の学習意欲を向上する方策を検討するとともに、学力向上に取り組む。(教務) ○「学びの基礎診断」(ベネッセスタディサポート・進研総合学力テスト)を通じて、生徒に主体的な学習習慣を身につけさせる。(進路) ○予習、復習を徹底して授業に臨ませるとともに、「授業第一主義」の趣旨を十分理解させ、授業の中で考え学ぶ姿勢を維持させる。(理数)</p>	<p>・2学期期末考査前の学習時間調査は、3教科162.1分、5教科272.1分(1年) ・教科担当者会を2回行い、学年全体の概況や個人の学習・生活状況について情報交換を図った。(1年) ・考査前の学習時間は一日300分前後であった。これが考査前でなくても確保できているかは、今後検討が必要である。(3年) ・南高手帳を使いこなせていない生徒が多い。(3年) ・先生方の協力のおかげで、円滑な時間割変更を実施することができた。自習をお願いしなければならぬところもあったが、概ね順調に授業を進めることができた。(教務) ・例年通り各教科で研究授業を実施していただき、指導力の向上につなげた。(教務) ・授業には集中して臨んでいる生徒が多い。また「考える」習慣も身につくつある。(理数)</p>	B	<p>○考査前は数値目標を超えているが、通常時についても継続できているかについては、注視していく必要がある。(3年) ○円滑な時間割変更を実施することができた。年度当初の臨時休校に対する補充授業を実施し、学習進度を確保することができた。(教務) ○各教科で校内研究授業を実施し、指導力の向上に努めた。また、授業評価により、授業や指導についてフィードバックされている。(教務) ○授業の中で集中して考える姿勢がうかがえるようになった。(理数) ●以前よりは減ってきたが、テスト前でもスマートフォンを使用する時間が多い。(1年) ●課題などは集中して臨んでいる生徒についていない生徒がやや多い。(1年) ●南高手帳を活用するような指導まで手が回らなかった。(3年)</p>	<p>・コロナ禍での学校生活の変更等は、生徒や教師に大変な負担だったと推察されるが、円滑な時間割変更等や、タイムマネジメントの徹底指導によって、目標に掲げた「授業第一主義」が貫かれたことは、大変良かった。 ・前例がなく、先行き不透明な中での日々の対応への困難、ストレスは生徒たちの負担となっていることだろう。加えて入試制度の変更もあり、受験環境が昨年と大きく変わった3年生に、心からエールを贈りたい。それぞれの道へ希望を持って進めることを願っている。 ・自己管理能力や計画立案力が大きな課題である。もはや、一から指導しないといけない生徒もいると思うので、「できるだろう」ではなく、「できない」ことを前提にして、南高手帳の活用の仕方を丁寧に指導する必要があると考える。 ・学習指導においては、生徒たちがスマホを使う頻度が多いため、今後どのような指導をしていったらよいか、学校内だけではなく、家庭内でも今後の課題になるかと思う。</p>
		<p>⑤文章や情報を正確に読み解く力を養い、主体的、対話的で深い学びを通して、思考力・判断力・表現力を養成する。</p>	<p>○大学入学共通テストを見据えて文章読解力を高め、国語・数学の記述力、および英語の4技能を意識した授業を実践する。(1年) ○成績上位者の学習意欲を喚起し、学習リーダーとしての自覚を持たせ、自己実現への強い意志を育てるために添削指導を行う。(2・3年) ○研究授業や授業見学週間を活用して、指導力の向上を図る。(教務) ○主体的、対話的で深い学びとなる課題研究を通して思考力・判断力を、また発表を通して表現力を養成する。(理数)</p>	<p>・国語・数学で、文章読解力や記述力を高めるための授業を工夫した。英語も普通の授業でコミュニケーション活動を工夫して行った。(1年) ・文章を早く正確に読み解くことができるよう、週一回の朝読書を継続した。また、思考力、表現力を養うため、新聞等を活用した調べ学習を実施した。(2年) ・研究授業や授業見学週間によって、他の先生の授業を参観する機会を得たことにより、自己の指導力を高めることができた。(教務) ・課題研究を通して、思考力や判断力はかなり高められたと思われるが、発表の機会が削られたのが残念である。(理数)</p>	B	<p>○コミュニケーション活動を行うことで、学習への関心も高まったようである。(1年) ○継続した読書活動により、最新の研究や世界における問題点に関心をもち、教養を養うことができた。(2年) ○研究授業において、ICT機器の授業への導入のヒントや、アクティブラーニングの手法といった提案性のある授業を参観することによって、新しい学び方を校内に広めることができた。(教務) ○課題研究の活動の中で、思考力・判断力の涵養はある程度なされた。(理数) ●十分な時間確保ができず、深い取り組みまでは至らなかった。(2年)</p>	<p>・「主体的・対話的で深い学び」を通しての思考力・判断力・表現力の向上に向けて、研究授業や授業見学週間の設定などを通して、更なる指導力の向上を図る。 ・各教科で文章や情報に関する読解力を育成するとともに、英語の4技能の育成を意識した授業を展開していく。</p>
		<p>⑥次期学習指導要領による新教育課程の編成及び「総合的な探究の時間」における課題探究の実践、観点別評価についての研究を進める。</p>	<p>○課題研究のテーマ設定において、地域課題の発掘・発見を視野に入れ、課題解決に向けた調査・分析、考察・判断、発表・表現の能力を涵養する指導を行う体制整備を図る。(全学年・教務) ○総合的な探究の時間並びに海外研修旅行を活用し、主体的に学び、探究する方法を身に付けさせ、グローバルな視点とコミュニケーション能力を養う。(1・2年) ○1年次の「総合的な探究の時間」に、次年度に向けた課題研究の準備講座を適宜組み込む。(理数) ○多面的な観点別評価の実施に向けての研究と検討を開始する。(教務・進路)</p>	<p>・『SDGs 探究』について、1月にクラス発表会、2月に学年発表会を行った。(1年) ・海外研修旅行は中止となったが、代替事業として函館・東北研修旅行を実施した。近県であり、かつ地域に根ざした独自の文化を体験でき、「総合的な探究の時間」を活用して探究学習を実施できた。(2年) ・5、6時間を充てていただき、課題研究が如何なるものかの理解は進んだ。(理数) ・観点別評価の実施に向けて、拡大連絡協議会を1回、職員研修会を1回開催し、研究と検討を開始している。</p>	B	<p>○他者と協力して課題を解決する力や、情報を見極め、再構成し新たな価値につなげていく力、さまざまな状況に柔軟に対応していく力などを高めることができたと思われる。(1年) ○東北、函館の歴史を学び、地域に根ざした独自の文化を体験できた。(2年) ○課題研究の基本は理解できたと思われる。(理数) ○観点別評価の検討開始段階としての意識や理解を深めることができた。(教務・進路) ●自分の興味・関心と研究テーマの結び付け方がまだ不明瞭である。(理数)</p>	<p>・次期教育課程を確実に編成し、運用に向けての準備を進める。 ・次期学習指導要領の実施にあたり、多面的な観点別評価に関する具体的な検討を進め、評価手法と手順を確立して実施に備える。 ・総合的な探究の時間における課題研究の指導に関して、教科横断的で組織的な全校規模の指導体制の構築を進める。 ・課題研究の実施に当たり、地域課題を取り上げる段階から、課題解決を図る段階へ深化させていく。</p>

3	進路指導	<p>⑦盤石な学力を基盤としながら、情報化・グローバル化など変化の激しい時代に求められる資質・能力を育成する。</p>	<p>○ICTを活用した情報収集や様々な学問・研究に触れさせることで、先を見通し、社会が求めるものを創造していくチャレンジ精神と行動力を育む。(1年) ○学習時間調査や進路希望調査を行い、教科担任、部顧問、家庭との連携を密にし、面談等を通じた生活実態の把握に努め、学力の向上に向けて指導する。(2年) ○学習時間調査や成績分析を通して、講習や模擬試験等を計画する。(3年) ○個々の進路目標に沿った指導を行い、国公立大合格170名以上、難関大学・医学部医学科合格30名以上を目指す。(進路)</p>	<p>・週1回『学びたいを見つける日』を設け、朝の時間を利用し、学問を知るための活動を行った。(1年) ・進路通信を適宜発行した。(1年) ・コロナ禍により、外部講師による進路講演会を実施できなかったが、学年独自に進路研修会を実施した。(2回)(2年) ・外部模試や学習状況を踏まえ、より効率的な講習を計画することができた。(3年) ・大学入学共通テスト平均点599.8(県内3位)。国公立大学出願数207(うち難関大・医学部医学科出願数27)(進路)</p>	B	<p>○コロナ禍で意識が停滞する中、進路意識の向上につなげることができた。(2年) ○17時から講習の取りやめに加え、コロナ禍による理社の進捗確保のため、3教科、特に数英の講習をほとんどしていない。しかし低学年段階から授業第一主義を掲げ、講習を当てにしない計画で進めていたため、3教科の成績低下は見られなかった。多くの生徒は、早くから取り組むことのできた理社で貯金を作ることができたため、共通テストでの好成績につながった。(3年) ○年度早期の段階で、受験勉強への意識を高めることができたことで、目標達成への良い足掛かりを作ることができた。(進路) ●学問や研究について知る機会を与えることができたのだが、さらに自分に興味があるものを自分で見つけさせる機会を与えていきたい。(1年) ●保護者向けに進路情報を発信する機会の創出に苦慮した。(2年) ●次年度の進路計画立案が不透明な中で、いかに早期に意識を高め、学習に取り組むことができるか。(進路)</p>	<p>・将来の世界や日本が、なかなか見通せない状況の中であっても、より一層の現状把握と自己理解・職業理解を進め、将来の自分の生き方・あり方を考え、ここでの学習に結びつけられるような指導が、一層必要だと思う。 ・少子高齢化の中、入学定員も削減され、将来的に他校との統合なども検討されることになるだろうが、生徒数、卒業生が減るほど村山地域での本校のブランド力は高まっていくと思う。今後も単なる進学校としてではなく、南高らしき“南高イズム”を加味した師弟同行の教育で、柔軟で多様な人材が世に送り出されることを切望する。 ・現状のコロナ禍が完全に収束することは当分無いだろう。南高生を見ていると、新しい世代が新しい時代を切り拓いてくれそうで、頼もしく感じる。引き続き御指導をいただき、生徒自身が困難に打ち勝てる青年に成長することを応援している。 ・ALTや留学生と触れ合う機会も増えるといいが、コロナ禍で山形大などの留学生が日本に来られない状況は残念。オンラインでの交流なども一手か。</p>
		<p>⑧広い視野と高い志を育成し、国公立大学や難関大学への挑戦意欲を喚起しながら、生徒一人一人の自己実現に向けたキャリア教育を推進する。</p>	<p>○個別面談を通して、生徒一人ひとりの進路目標や適性を踏まえ、適切な文系・理系のコース選択を指導する。(1年) ○個別面談を通して、生徒一人ひとりの進路目標や適性を踏まえ、全国偏差値の学年平均60以上、かつ、全国偏差値65以上の生徒60名以上を目指して指導する。(2年) ○志望校合格に向けた盤石な学力と、国公立大学後期日程まで粘り強く努力する態度を養うため、平常講習、夏期・冬期講習、二次対策講習を実施する。(3年) ○国公立大学170名以上、難関大学30名以上の合格を目指す。(3年) ○職業講話(1年)、進路講演会(各学年)などを実施する。(進路) ○希望者に対し、医師体験、看護師体験、理学・作業療法士体験などに積極的に参加させる。(進路) ○筑波研究学園都市研修を1年生対象に実施する。(理数)</p>	<p>・面談週間における年3回の二者面談と、文理分けの保護者への説明会を行った。(1年) ・大学出張講義を廃止し、夢ナビ動画を導入した。(講義数2,900)(2年) ・外部模試や学習状況を踏まえ、より効率的な講習を計画することができた。(3年、前掲) ・職業講話は予定通り実施(9月)。進路講演会は、1年・3年は予定通り実できたが、。2年は感染拡大防止のため中止。(進路) ・各種体験活動は、すべて中止。(進路) ・筑波研究学園都市研修は、これから実施する予定である。⇒中止となった。(理数)</p>	B	<p>○全員と面談し、生徒の希望や意思を尊重して文理選択を行うことができた。(1年) ○大学の最先端研究の講義を個人のスマートフォンで自由に視聴でき、学部学科の探究ができた。(2年) ○Zoomを使用して、講義担当教授に直接質問できるイベントに参加し、理解を深めることができた。(2年) ○17時から講習の取りやめに加え、コロナ禍による理社の進捗確保のため、3教科、特に数英の講習をほとんどしていない。しかし低学年段階から授業第一主義を掲げ、講習を当てにしない計画で進めていたため、3教科の成績低下は見られなかった。多くの生徒は、早くから取り組むことのできた理社で貯金を作ることができたため、共通テストでの好成績につながった。(3年、前掲) ○行事を通して、生徒自身の進路意識・キャリア意識を高めることができた。(進路) ●イベント参加者が40名程度にとどまった。(2年) ●感染拡大防止のためとはいえ、体験行事等に全く参加できなかったのは大変残念であった。(進路) ●筑波研究学園都市研修を実施できなかった。(理数)</p>	<p>・国公立大への進学率アップが依然として掲げられているが、全入時代の中、生徒の希望、資質を優先した指導に主眼を移すべきではないか。中高一貫の有名私立校と肩を並べるには、高校の3年間で絶対的にカリキュラム消化の時間が足りなすぎると思う。さらに次期学習指導要領に掲げる探究学習に本格的に取り込むならば膨大な時間が必要になり、これまでの受験テクニックを磨くような時間も不足するのではないかと。よって、私立伝統校の指定校推薦、国公立においてもAO、一般など推薦制度をもっと活用して、一定レベルの大学への合格実績を上げることも道の一つではないだろうか。本校は「文武両道」のもと、部活にも熱心に取り組んでおり、AOに積極的に臨める環境はあると思う。 ・大学入学共通テストの好成績は、評価すべきと考える。国公立・難関大学への挑戦ができるよう、先生方の更なる意欲喚起を期待したい。 ・コロナ禍において、受験会場や感染拡大地域などの様々なリスクを勘案すると、私立附属高校から附属大学への進学率に魅力を感じてしまい、自分も私立大学への推薦という選択をする生徒もいるかもしれない。南高生の進学に対するモチベーションを低下させることなく、難関大学への挑戦を継続していけるよう、先生方の指導に期待する。</p>
		<p>⑨高大接続改革への万全な対応と、県内大学等との連携充実を図る。</p>	<p>○高大接続改革を見据えて、南高手帳やe-ポートフォリオを活用し、生徒のキャリア育成に資するとともに、最新の改革動向を踏まえて適切に対応する。(1・2年) ○南高手帳やe-ポートフォリオを活用した調査書や志望理由書の作成を推進する。(3年) ○大学入学共通テスト等、新しい大学入試制度への対応について、校内での実践を進めるために、各種研修会へ教員を積極的に派遣する。(進路) ○山形大学理学部との連携事業として、実験講座を1・2年生対象に実施する。(理数)</p>	<p>・クラッシーポートフォリオを使用し、自分の様々な活動を記録し、それに対する自己評価をさせた。(1年) ・e-ポートフォリオの仕組み自体が頓挫してしまったり、積極的な活用にはつながらなかった。(3年) ・「社会を生きぬく確かな学力育成事業」(県教委)を活用した職員研修を計画していたものの、ほとんどが中止に終わった。(進路) ・回数は各1回と減ったが、中止にすることなく開講することができた。(理数)</p>	B	<p>○ポートフォリオの活動によって、様々な活動に目標を持って取り組むことができたと思う。(1年) ○実験することの意義や実施上の留意点、データ処理の仕方など重要なポイントを学ばせることができた。(理数) ●今後、電子データで残したポートフォリオを、どの場面で利・活用できるか一層の研究が必要である。(3年) ●次年度も明るい展望が見えない中で、遠隔機能を使用した研修の積極的参加も計画しなければならないであろう。(進路)</p>	<p>・引き続き大学入試の変化に対する情報収集を確実に進め、的確に対応できる進路指導を進める。 ・生徒や保護者のニーズを把握・勘案しながら、効果的な進路指導を進めていく。その際、情報の発信という点にも配慮する。 ・高等教育機関等との連携を一層強化しながらキャリア教育を充実させ、難関大学に挑戦する意欲を喚起する。 ・コロナ禍の中、実施できる内容を精選しながら確実に実施していく。</p>

4	生徒指導	<p>⑩自治的な生徒会活動と活発な部活動を奨励しながら情熱や粘り強さを涵養し、多様性の理解を促しながら自他を尊重しあう集団づくりを行う。</p>	<p>○部活動や生徒会活動への積極的参加を促し、自主自律の精神を育てる。(1年) ○部活動や生徒会活動では、中核的な役割を担って活躍できるよう指導助言を行う。(2年) ○「我等の心得」に則り、自主自律の精神を養い、南高生としての自覚と誇りを持った行動がとれるよう指導助言を行う。(2年) ○多様性を受け入れる寛容さと最後までやり遂げる責任感を育てるため、生徒会スローガン「轟進」の精神に基づき、部活動や生徒会活動に最後まで積極的に取り組ませる。(3年) ○本校部活動方針に基づき、各種大会での上位入賞・全国大会出場を目指す。コロナ感染予防対策を立てながら、合理的、効果的、効率的な活動を追求し、学習との調和に努める。(生徒) ○自主的、積極的な生徒会活動を実践させ、互いを尊重、協力する姿勢と自他の命を大切にすることを育てる。(生徒)</p>	<p>・担任や顧問の先生方の指導により、全体的に積極的に参加している。(1年) ・生徒会長選挙に3名が立候補した。(2年) ・インターハイが中止になっても部活動に前向きに取り組んだ。その中でバレーボール部の全国大会出場、陸上部駅伝の快走などは、学年に活気を与えた。生徒会活動では、大きな制限がある中、生徒総会や学校祭において、柔軟な発想による新しい方法で実施した。(3年) ・コロナ禍の中、「今できること」を考え、主体的な生徒会活動を行い、様々な生徒会行事において新たな取り組みを取り入れて実践することができた。(生徒) ・各種大会が中止になる中、多くの3年生にとってその成果が発揮する場を失ったが、専門的な技術はもちろん、文武両道で頑張る姿や、礼儀、挨拶、ボランティアなどの取り組みなど、後輩へしっかりと引き継いでくれたと思う。(生徒) ・全日本高校選手権へ2年連続でバレーボール部が出場し、文化部も全国高総文祭に書道部・写真部が参加し、文芸部は全国高校文芸コンクールの文芸部誌部門で奨励賞を受賞するなど、全国の舞台で「部活動は学校を元気にする」素晴らしい活躍であった。(生徒)</p>	B	<p>○「我等の心得」に則り、南高生としての自覚と誇りを持った生徒会運営を構築できた。(2年) ○後輩に伝統を継承するという視点で、部活動をやりあげたと思う。(3年) ○新しい伝統を作り上げ、後輩に気概を示すことができたのではないと思う。(3年) ○新しい生活様式の中、南高祭、クラスマッチなど新しい形での取り組みは、チーム意識を向上させ「誇り」を高め、自主的、積極的な生徒会活動により責任と協調性が身についた。(生徒) ○生徒会、各種委員会で、生徒会報「コバルト」を通じて広報しながら活動することができた。(生徒) ●残念ながら部活動を3年生で行うことができなかった。(1年) ●本校の部活動方針のもと、熱心な各部顧問の指導を、より合理的、かつ効果的に取り組んでいく必要がある。(生徒)</p>	<p>・コロナ禍で、部活動、生徒会活動などが制限される中、「今できること」を考えて、種々の活動が実践できたことは、これからの人生で、様々な問題に直面した時の大きな支えになると考えられる。また、南高生としての自覚と誇りを持ち、生徒会活動や支援活動・ボランティア活動に前向きに取り組む、自主自律の精神を持つことができたことも、素晴らしいことである。是非、継続していただきたい。 ・コロナ禍の中、集まった部活動ができなかったり、大会が中止・延期になったりと、大変な1年間だった。そんな中でも、全国大会に出場を果たした種目もある。御指導して頂いた先生方に感謝するとともに、頑張った生徒達を絶賛し、後輩達に良い伝統を引き継いでもらいたい。</p>
		<p>⑪学校全体でいじめ防止に取り組むとともに、読書やボランティア活動を奨励し、道徳心や公共心を醸成する。</p>	<p>○面談週間やホームルーム活動を活用し、生徒理解と生活実態の把握に努める。(1・2年) ○早期に学校生活に適應できるよう支援する。(1年) ○充実した学校生活が送れるように指導助言を行う。(2年) ○教科担任、部顧問、家庭との連携を密にしつつ、面談等を通じた生活実態の把握に努める。選挙権年齢に達することを契機に、社会形成に資する人材であることを自覚させる。(3年) ○「いじめ・非行をなくそう」県民運動を踏まえ、生徒会によるスローガン等を作成し、主体的に取り組ませる。(生徒) ○生徒会や部活動、クラス単位でボランティアに取り組む、地域や社会の中で交流する場を積極的に設け、奉仕の精神や道徳心を育む。(生徒)</p>	<p>・面談週間における年3回の二者面談と、年2回の教科担当者会を行った。(1年) ・二者面談にて生徒理解と生活実態の把握を行った(3回)(2年) ・県知事選挙に合わせて、学年通信で選挙について啓発した。(3年) ・8月の県内の豪雨災害に対して、支援活動を部活動単位で行うことができた。(生徒) ・地元の町内会と連携を図り、学校周辺の除雪に、クラス単位で取り組んでいる。(生徒) ・「いじめ・非行をなくそう」スローガンを作成し、本校いじめ防止基本方針とともに生徒へ周知しながら、未然防止を図ることができた。(生徒)</p>	B	<p>○面談シートを工夫して活用することにより、生徒に寄り添い、きめ細かく対応できた。相互の信頼関係を構築できている。(2年) ○選挙に行ったかどうかはプライバシーにも関わらないため調査していないが、受験期の中でも是非投票に行くよう啓発した。(3年) ○部活動単位やクラス単位での積極的なボランティア活動は高く評価できる。他の災害に対しての支援も行うことができた。(生徒) ○いじめを察知した段階で組織的(小委員会)に対応することができた。(生徒) ●担任の業務量が多く、生徒理解に十分な時間が割けない状況が見られる。(文系のクラス人数が多い。1組43名、2組42名)(2年)</p>	<p>・アンケート結果を見ると、コロナの影響を強く感じる。教職員、保護者とも「奉仕活動等の体験学習」や「ボランティア活動の推進」が大きくポイントを下げてきているのは、コロナで自粛せざるを得なかった影響があると思う。</p>
		<p>⑫自己肯定感を高めるとともに、自己管理能力の養成と教育相談の充実により、生徒の心身の健康保持に努める。</p>	<p>○南高手帳やポートフォリオを活用し、自己管理能力を高め、基本的な生活習慣を早期に確立させる。また、自他を尊重し、高めあう集団を育成する。(1・2年) ○教育相談委員会や養護教諭、スクールカウンセラー(S.C)と協力しながら、疾病を持つ生徒や学校不適應・不登校の生徒に早期に対応し、心身の健康に関する問題の解決に努める。(全年齢・保健) ○非行行為の根絶、いじめや盗難のない安心・安全な学校環境づくりのために、「我等の心得」に則り、南高生としての自覚と誇りを持ち、自主的で自律した活動を奨励する。(生徒) ○様々な生徒に対し、養護教諭やS.Cと協力、連携しながら生徒指導を行う。(生徒)</p>	<p>・クラッシーポートフォリオを使用し、自分の様々な活動を記録し、それに対する自己評価を行わせた。(1年) ・学校生活に適應できない生徒に対する際、教育相談委員会、養護教諭、S.Cなどに多大な協力をいただいた。(1年) ・各学年を中心に、相談委員会や養護教諭・S.Cの連携により、昨年と比較するとカウンセリングを受ける生徒や保護者が減少した。(保健) ・交通事故件数は昨年度より増加した。(7⇒14)大きな事故にはなっていないが、今後も0件を目指す。(生徒) ・不登校傾向、生徒間のトラブルに対して、担任、学年、養護教諭、S.C等が連携しながら対応できた。(生徒)</p>	B	<p>○ポートフォリオの活動によって、自己肯定感の養成や自主的な学びにつながったと思われる。(1年) ○小・中学校からの環境が大きく変わったことやコロナ禍に適應できない生徒に対して、組織的な対応ができた。(保健) ●不登校傾向にある生徒に対して、担任だけに負担がかからないよう、最善策としてのさらなる組織作りが求められる。(保健)</p>	<p>・不登校対策は中学校でも一番の課題であり、小学校との連携が必須条件となっている。個別的教育支援計画の上位学校への引き継ぎを可能な範囲で行う必要がある。生徒は一つとして同じ事例はなく、保護者の考えも様々であるので、担任だけで対応するには限界がある。教育相談委員会等の組織を活かしながら学年や担任の取り組みを支援できる体制は、重要性を増していると思う。</p>

5	その他	<p>⑬感染症の予防や事故の未然防止、事故等発生時における的確な対応など、安全教育・安全管理の取組みを推進する。</p>	<p>○手洗い、うがい、マスク着用など、個人ができる感染症予防対策を徹底させるとともに、生活リズムを整えさせ、健康な生活を送らせる。(1年) ○登下校の安全指導と自転車の運転マナーの指導を徹底する。(1年) ○事故の未然防止に努め、様々な危険について注意を促し、安全教育を推進する。(2年) ○感染症予防に向けて、マスク、手洗い、消毒、換気等を励行する。(3年) ○定期的に安全点検を行い、事務室と連携し、危険箇所を修繕する。(総務) ○健康観察簿の活用により、生徒の健康状態を把握して感染症等を未然防止し、また、校内外の点検等により、学校事故の根絶、安全点検の徹底を図る。(保健)</p>	<p>・手洗い・うがい・マスクの着用を徹底した。(1年) ・交通事故が3件発生した(1年) ・函館・東北研修旅行実施に伴い、徹底した感染症予防策に取り組んだ。(2年) ・受験生という自覚のもと、より厳重に感染症予防に取り組んだ。(3年) ・危険箇所の修繕については、速やかに技能員に確認していただき対応している。(総務) ・感染症対策として健康観察簿の活用や各掃除箇所への「消毒グッズ」を設置した。(保健) ・熱中症対策として、AED講習会や各部への熱中症計配付、また保健だよりによる啓発などにより大きな学校事故を防ぐことはできた。(保健)</p>	B	<p>○研修旅行中、感染症予防を徹底し、研修旅行後も継続して感染症予防を徹底できている。(2年) ○緊急事態宣言下で受験で都内へ行く生徒もいるため、徹底した感染症予防を周知徹底した。現在のところ感染した生徒はいない。(3年) ○感染症対策として、各掃除場所への消毒グッズや消毒液の設置により対策ができた。(保健) ●勉強と部活動との両立など、生活リズムが取れていない生徒もいて、欠席がやや多い。(1年) ●設備が古くなって根本的な改修が必要な部分が増えている。(総務) ●新型コロナウイルス感染症対策費の用途について。(保健) ●さくら連絡網による「健康チェック」の、生徒への周知徹底について。(保健)</p>	<p>・学校施設整備については、熱中症や体調不良等、生徒の安全・安心を考えると、高校でも早急に授業を当たり前にできる環境づくりを県に要望すべきではないか。 ・昨年の夏は真夏日や猛暑日が多く、クーラーが無いと脱水症状を起こしかねない日々が続いた。現在、全クラスに冷房機器は設置されていないので、早い対応が必要かと思う。また、エアコンをつけると窓は閉め切ることになるが、この場合の部屋の換気をどうするか、についても検討していただけたらと思う。 ・設備の点は経費の問題で、学校内部だけでは解決できない面があり、課題を整理して、さらに要望していく必要があると思う。 ・アンケートでは、学校の老朽化に伴って、設備評価が低くなることは避けようがない。一方で、何よりも「南高に入学して良かった。入学させて良かった。」と回答している生徒、保護者が大半を占めることが、現状を反映した事実だと思う。施設(ハード面)のハンデが、先生方の努力(ソフト面)で補われていることを改めて実感した。 ・リスクマネジメントは、学校側だけが行うものではなく、リスクの実態や課題を共有し、生徒自身がリスクマネジメント力をつけることも必要だと思う。</p>	<p>・新型コロナウイルス防止のための「新しい生活様式」を踏まえた学校運営を徹底する。 ・学校安全の日を中心に、校舎内外の定期的な巡回を行って危険箇所の発見・対処に努め、事故の根絶を期す。 ・事故の未然防止と事故発生時に的確な対応が取れるよう安全教育・安全管理の取組を進める。 ・警察や家庭・地域と連携して交通安全指導を進める。</p>
		<p>⑭校舎内外の清掃・美化を徹底するとともに、学習環境の整備を図る。</p>	<p>○教室等の環境整備を徹底して、学習に集中できる清潔な環境づくりに努めさせる。(1・2年) ○ゴミを持ち帰る指導を徹底して、学習に集中できる清潔な環境づくりに努めさせる。(3年) ○事務室と連携を図りながら、校内諸施設・備品の整備・充実を図る。(総務) ○ゴミを持ち込まない・持ち帰る指導を徹底し、安全で清潔な環境づくりを進める。(保健) ○毎日の清掃指導と点検、清掃強調週間による徹底を図る。(保健)</p>	<p>・教室はもとより、廊下にも私物を置かないように指導する。(2年) ・清掃は励行しているも、私物の整理ができず、教室が乱雑になっているところがある。(3年) ・1、2年生の教室や特別教室への扇風機を増やし、熱中症対策を進めた。(総務) ・各学年での指導により、HR教室や廊下はきれいな状態を保つことができた。(保健)</p>	B	<p>●日頃より整理整頓する習慣づけが必要。日常の文字が乱雑な点も矯正するの必要性が大きい。(2年) ●身近なものを整理整頓するよう、指導を徹底していく必要がある。(3年) ●扇風機では局所的であり、エアコンの早期導入が望まれる。(総務)</p>	<p>・日常の文字の丁寧さ、身近なものの整理整頓などは、本来、小中学校の段階でしっかり身につけさせたい習慣である。高校へ入学するために、「学力」に加えて、「基本的な生活習慣」「生活力」も必要であることを義務教育でも指導していきたい。</p>	<p>・新型コロナウイルス対策としての換気や消毒等を引き続き徹底する。 ・環境美化の意識をさらに高め、施設設備の維持・保全に努める。 ・県との連携の下、優先順位を明確にししながら、施設・設備整備の要望を行い、改善を進める。</p>
		<p>⑮積極的な情報発信と学校評価活動による開かれた学校づくりに努める。</p>	<p>○学年PTA・学級懇談会・保護者対象の講演会を開催し、連携を強化する。(1年) ○「さくら連絡網」や学年通信の発行を通して生徒の学校生活と各種情報を提供し、保護者との連携を密にして共通理解を図る。(全学年) ○南高ホームページの管理を適切に行う。(総務)</p>	<p>・保護者向けの進路講演会を1回実施。学年通信を16号発行した。(1年) ・学年通信「初志」を継続的に発行し、さくら連絡網でも学校の様子を伝えることができた。(2年) ・学年通信「駿翔」を20号発行し、さくら連絡網で配信した。(3年) ・ブログの更新を適宜行った。コロナ禍で例年よりも少なかった。(総務)</p>	B	<p>○連絡や学校の様子をできるだけ学年通信に掲載したが、今後更に内容を充実させたい。(3年) ●コロナ禍で保護者と担任が一度も顔を合わせることができなかった。相互関係の構築に苦慮した。(2年)</p>	<p>・生徒アンケートでポイントが低下したのが「学校の特色や生徒の活動がブログ等で積極的に発信されている」と「進路指導は満足できるもの」である。コロナ対応で先生方も大変だったと思うが、部活動も少なかったことから、ブログ等に積極的に取り組む時間もあつたのではないかと。 ・アンケートの中で、保護者が子供達を南高に入学させて良かったという回答が97%を超えている点が大変嬉しく思っている。保護者にとって、それだけ南高が信頼出来て、安心して預けられる高校だという証かと思う。</p>	<p>・本校ホームページの適切な更新やさくら連絡網を活用した情報発信に努め、コロナ禍の状況下における本校の教育活動に対する理解を深化させる。 ・携帯端末の更新などでさくら連絡網が受信できなかったり、送信されても閲覧しなかったりする事例もあるようなので、確実な情報の受信を徹底させる。 ・学校評価の結果をPDCAサイクルの中で確実に生かし、開かれた学校づくりに努める。</p>